

松室ひろさんが県知事賞を受賞

第32回大分県小さな親切運動作文コンクール小学生の部で、最優秀賞の県知事賞に松室ひろさん（国東小4年）の「小さな親切がいつぱい」が選ばれました。また、全日本「小さな親切」作文コンクールでも入選しました。

小さな親切運動作文コンクールは、小・中学生を対象に、「私とした、うけた、みた、できなかった親切」をテーマに毎年開催されており、今年も小学生・中学生の各部に県内から1339作品の応募がありました。

市内関係者の入賞者は次のとおりです。（敬称略）

小学生の部

- 大分県知事賞 松室ひろ（国東小4年）
- 大分県教育長賞 西田千佳子（武蔵東小4年）
- 大分県本部会長賞 厚田 浩明（武蔵東小5年）
- 大分県教育委員長賞 永山あやめ（武蔵中3年）
- 大分県教育長賞 森 彩葉（武蔵中3年）
- 大分県本部優良賞 神鳥 優希（武蔵中2年）

中学生の部

「おはよう。今日もがんばってな。」  
わたしが学校に行く時、いつも声をかけてくれる人たちがいます。うでにはみどり色のわんしゅうをして、道のまがりかどやおうだんほどうに立っています。

それは、「ちいき安全パトロール」のおじいちゃん、おばあちゃんたちです。おじいちゃん、おばあちゃんたちは、雨の日も暑い日もわたしたちが登下校でこわい思いをしないように、いつも見守ってくれています。

「おはようございます。」  
わたしがあいさつを返すと、おじいちゃんやおばあちゃんたちは、やさしい目をして、わらってくれます。その時は、わたしも、すこくうれしい気持ちになります。

わたしにあいさつをしてくれるのは、安全パトロールのおじいちゃん、おばあちゃんだけではありません。

道で出会う人たちは、わたしが「おはようございます」「こんにちは」「こんにちは」「おはようございます」と、あいさつをすると、いつもえがおで、「こんにちは」と、こたえを返してくれます。すると、わたしもえがおになります。

かなしいことや落ちこむことがあっても、あいさつをしてもらうと、わたしには、なぜか元気が出てきます。「国東市には親切な人がたくさんいるな。」と、わたしはいつも思います。

親切な人は、わたしの学校にもたくさんいます。あれは、給食当番でじゅんびをしている時でした。重い食器を一人で運んでいると、うしろから、「いっしょに運ぼうか？」という友だちの声がしました。わたしは、うれしくて、「うん。ありがとう。」と答えました。いっしょに運んでもらう間、わたしはうれしくて、心が何度も、ぼつとあたたくくなりました。

その日から、わたしも、食器やどうぐなど重いものを持っている人がいたら、「だいじょうぶ。もってあげようか。」と、いうようにしています。すると、その人は、うれしそうに、「ありがとう。」

「ありがとうございます。その時は、わたしも、いってくれます。その時は、わたしも、うれしい気持ちになります。

考えると、わたしのまわりには、小さな親切がいつぱいあります。小さな親切があるから、つらい時も、「がんばろう。」という気持ちがわいたり、うれしい気持ちになったりするんだと思います。

わたしがしてもらってうれしかったことは、どんだんわたしまもしていきたいです。そして、わたしのまわりを、もっともっと小さな親切がいつぱいにしていきたいと思います。



松室ひろ

飲酒運転防止を呼びかけ、佐藤悦子さん(武蔵町)が市教育委員会に本を寄贈

鹿児島県奄美市（奄美大島）で平成15年11月に起きた飲酒ひき逃げ事故で、二男の隆陸（たかみち）さん（当時24歳）を亡くした武蔵町古市の佐藤悦子さんが12月13日(木)、市教育委員会を訪れ、飲酒運転の撲滅を訴える本40冊を寄贈しました。

▲本を寄贈する佐藤悦子さん（右）

寄贈したのは遺族や加害者の手記を集めた「子どもたちからのメッセージ 飲酒運転をやめて！」（汐文社）で、隆陸さんが婚約指輪を買うために貯めていた預金を解約して購入。佐藤さんは「子どもだけでなく、家族と一緒に読んで、飲酒運転について話し合うきっかけにして、飲酒運転をなくし、多くの人々の命を救うことになればと思います。」と話しています。

10